新潟県五泉市における
保幼小連携に関する実態調査報告書

――就学前施設年長児担任・小学校１年生担任・特別支援学級担任の回答からの検証――

2018 年 5 月

新潟青陵大学　齊藤研究室

はじめに

乳幼児期の教育がその時期の子どもたちの発達を支え，小学校教育への滑らかな移行によって児童の学習活動が充実することは，誰もが願っていることであると考えます。

このような願いは，「保育所保育指針」，「幼稚園教育要領」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」，「小学校学習指導要領」においても，「幼児期の教育を担う就学前施設と小学校との連携を推進する」として明記されております。

また，新たに告示された「保育所保育指針」，「幼稚園教育要領」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」には，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明示されました。就学前施設は，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとして，小学校教諭と子どもの姿を共有し円滑な接続を図ることが求められています。

これまでも各自治体では，就学前施設と小学校教育の連携の推進を図るために，多くの実態調査や滑らかな移行を目指した実践と研究が行われてきました。

例えば，就学前施設と小学校との交流や情報交換，幼児期後期から児童期前期の発達特徴や学びの連続性を考慮した連続したカリキュラムの作成等が挙げられます。しかし，その多くの実践や研究には，維持・継続性が困難であるといった問題や，互いの保育・教育内容に肯定的な影響を及ぼすところまでには至っていないことが指摘されています(渡邊，2017)。

上記のような課題は，「連携」の難しさが一つの要因となっているのです。「連携」という言葉は，日頃から良く用いられ，教育関係者にはなじみのあるものであると思われます。一方で「連携」とは何かと問われると、説明が困難な場合もあります。「連携」は，専門職間のネットワークをつなぐ手段であり，その先には専門職間の統一した達成目標があるべきなのではないかと考えます。本報告を作成するにあたっても，「連携」の捉えの重要性を学ばせていただきました。

本報告は，上記の課題に対して実態調査を実施した新潟県五泉市教育委員会様より依頼を受けて分析した結果を報告するものです。

全国的にも「連携」のあゆみはさまざまであり，情報交換が難しい自治体から，交流による相互理解，学びを軸としたカリキュラム編成が実施されている自治体まであります。本実態調査の検証から，就学前施設と小学校の「連携」と「協働」がより一層進展し，今後の五泉市の保育・教育が充実する糸口となる資料となることを願います。

齊藤　勇紀(新潟青陵大学)

1. 調査目的

新潟県五泉市（以下「五泉市」）における保幼小の連携についての実施状況を把握し，円滑な接続期に向けた取組に対する示唆を得ることを目的とした。

2. 調査方法

対象：五泉市内の保育所・幼稚園の年長児担任（以下，「就学前施設」），小学校 1 年担任教諭・特別支援学級担任（以下，「小学校」）を対象とした。

手続き：教育委員会から所属長を通しての自記式質問紙調査。

時期：平成 30 年 3 月 1 日～3 月 31 日

回収率：87.8%（内訳：公立保育所 83.3%（n＝10），私立保育所 75.3%（n＝3），公立幼稚園 100%（n＝3），私立幼稚園 100%（n＝4），小学校 1 年生担任 87.5%（n＝14），特別支援学級担任 100%（n＝9））返信のあったすべての質問紙を標本とした。

3. 調査内容

河口・七木田（2017）を参考に，以下の項目について各対象者に質問調査を実施した。

(1) フェイスシート【すべての対象者に対して，所属と職名，経験年数の記述を依頼した】

(2) 現在実施している保幼小の連携に対する取り組みについて【多肢選択】

(3) 今後必要であると思われる保幼小の連携を図るための取り組みついて【多肢選択】

(4) 保幼小の連携を進める際の課題について【多肢選択】

(5) 小学校担任に対する「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用について【多肢選択】

(6) 就学前施設担任に対する「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用ついて【多肢選択】

(7) 保幼小の円滑な接続に対する取り組みと研修に関する意見について【自由記述】

4. 主な調査結果

標本を就学前施設・小学校の両群に分け，以下(1)～(3)に関する直接確立計算を行った。

(1) 現在実施している保幼小の連携に対する取り組みについて

「1. 通常の活動や授業における子ども同士の交流」は $p = 0.0093$ ($p < .01$)(片側検定)であり，優位水準 1%で優位であった。また，「9. 小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり」は $p = 0.0000$ ($p < .01$)(片側検定)であり，優位水準 1%で優位であった。

この結果から，<u>小学校の方が就学前施設よりも，「通常の活動や授業における子ども同士の交流」と「小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり」についての回等の個数が多い</u>ことが強く示された。

(2) 保幼小連携のために今後必要と思われる取組みについて

「9. 小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり」は $p = 0.0049$ ($p < .01$) (片側検定)であり，優位水準 1%で優位であった。

この結果から，<u>小学校の方が就学前施設よりも，「小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり」についての回等の個数が多い</u>ことが強く示された。

(3) 保幼小連携を促進するための課題について

「3. 小学校教諭と保育者の間で指導者間の共通理解を図ること」は $p = 0.0935$ ($.05 < p < .10$) (片側検定)であり，優位水準 10%で優位であった。

この結果から，就学前施設の方が小学校よりも，「小学校教諭と保育者の間で指導間の共通理解を図ること」についての回等の個数が多いことが示された。

また「9. 活動時間の確保」は $p = 0.0188$（$p < .05$）(片側検定)であり，優位水準 5%で優位であった。さらに，「11. 担任教諭が異動した後の継続」は $p = 0.0577$ （$.05 < p < .10$）(片側検定)であり，優位水準 10%で優位であった。

この結果から，小学校の方が就学前施設よりも，「活動時間の確保」と「担任教諭が異動した後の継続」についての回等の個数が多いことが示された。

(4) 小学校担任の「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用について

χ^2 検定の結果は $\chi^2(5) = 10.998$， $.05 < p < .10$ であり，小学校担任の「要録」に対する回答の個数の頻度の偏りに有意差は見られなかった。

(5) 就学前施設担任に対する「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用ついて

χ^2 検定の結果，就学前施設担任の「要録」に対する回答個数の頻度の偏りは，有意であった($\chi^2(5) = 35.839$， $p < .01$)。Ryan 法による多重比較の結果，「『保育所児童保育要録』『幼稚園幼児指導要録』の送付だけでなく，直接小学校と情報を共有する必要がある」は，「小学校へ伝えたい内容をすべて記述することができる」「保護者の願いを記入したほうがよい」「入学後は，教育の中で活用されていると思う」よりも頻度の偏りが大きかった。

この結果から，就学前施設では，指導要録の送付だけでなく，直接小学校と情報を共有する必要があると考えていることが強く示された。

5. 考察

(1)現在実施している保幼小の連携及び，今後必要と思われる取組について，小学校の方が就学前施設よりも，「小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり」についての回答の個数が有意に多いといった結果が得られた。この知見から，小学校におけるスタートカリキュラムの検討の必要性が示唆される。

(2)就学前施設の方が小学校よりも，「小学校教諭と保育者の間で指導観の共通理解を図ること」についての回等の個数が多いといった結果が得られた。この知見から就学前施設におけるアプローチカリキュラムの検討の必要性が示唆されるとともに，就学前施設と小学校が連携・協働して情報交換のシステム構築を行う必要性が示唆される。

6. 今後の取組

本調査の結果及び考察に基づいて，以下の取組を提言する。

(1) 保幼小連携ワーキングチームの設置

保育所，幼稚園，小学校からメンバーを選任してワーキングチームを組織し，以下の点についての計画立案及びカリキュラムの作成に関する協議を行う。

1) アプローチカリキュラム，スタートカリキュラムについての検討を行う。

2) 就学前施設と小学校が相互に行う研修会を企画立案するとともに，活動する場の確保を行う。

(2) 保幼小連携モデル事業の実施

ワーキングチームの立案計画を基に，モデル園，モデル校を選定し，保幼小連携のモデルを構築する。

【資料 1】調査結果

1．調査対象者の属性

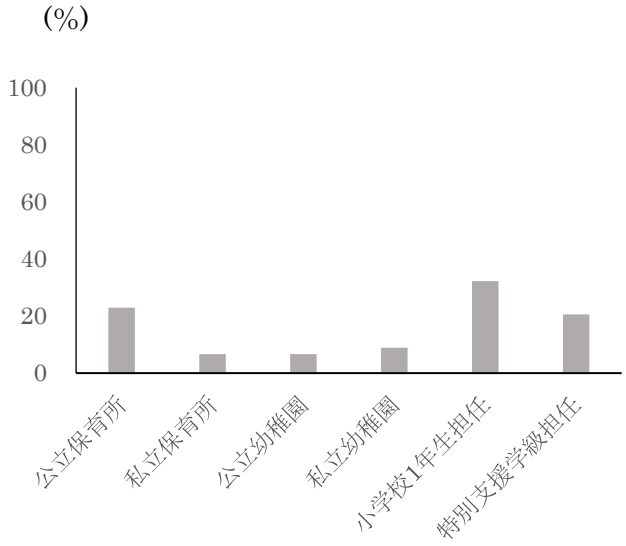

Figure 1 調査対象者の所属の割合

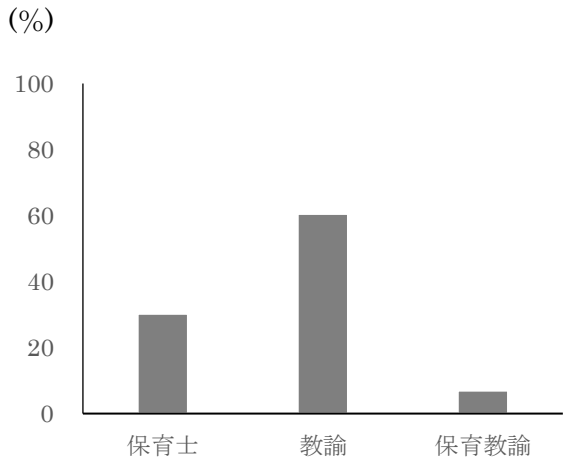

Figure 2　調査対象者の職種の割合

問 1　保幼小の連携を図るために現在実施している取り組みについて，あてはまる番号に〇をつけてください(複数回答可)。

[直接確率計算２×２]による分析

1．通常の活動や授業における子ども同士の交流

	回答あり	回答なし
就学前	5	15
小学校	15	8

両側検定　：　p = 0.0139　*　(p < .05)

片側検定　：　p = 0.0093　** (p < .01)

2．運動会等の行事をとおした交流活動

	回答あり	回答なし
就学前	2	18
小学校	6	17

両側検定　：　p = 0.2503　ns (.10 < p)

片側検定　：　p = 0.1695　ns (.10 < p)

3．交流前における教員・保育者との打合せ

	回答あり	回答なし
就学前	2	18
小学校	7	16

両側検定　：　p = 0.1417　ns (.10 < p)

片側検定　：　p = 0.1014　ns (.10 < p)

4. 交流会後の教員・保育者のとの話合い

	回答あり	回答なし
就学前	2	18
小学校	2	21

両側検定 ： p = 1.0000 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.6412 ns (.10 < p)

5. 相手校・園との事務的な打合せ

	回答あり	回答なし
就学前	6	14
小学校	10	13

両側検定 ： p = 0.5282 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.2765 ns (.10 < p)

6. 保・幼と学校との保育課程(全体計画)・教育課程の見直し

有意でない(95%信頼区間,片側)

	回答あり	回答なし
就学前	0	0
小学校	0	0

7. 小学校教諭による保育所・幼稚園への参観

	回答あり	回答なし
就学前	7	13
小学校	12	11

両側検定 ： p = 0.3586 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.2055 ns (.10 < p)

8. 保育者・幼稚園教諭による小学校への授業参観

	回答あり	回答なし
就学前	9	11
小学校	12	11

両側検定 ： p = 0.7626 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.4352 ns (.10 < p)

9. 小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり

	回答あり	回答なし
就学前	3	17
小学校	20	3

両側検定 ： p = 0.0000 ** (p < .01)
片側検定 ： p = 0.0000 ** (p < .01)

10. 就学時の情報交換会

	回答あり	回答なし
就学前	18	2
小学校	23	0

両側検定 ： p = 0.2104 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.2104 ns (.10 < p)

11. 子どもの様子についての情報交換会

	回答あり	回答なし
就学前	12	8
小学校	18	5

両側検定 ： p = 0.3184 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.1667 ns (.10 < p)

12．保育や授業などの実践についての合同研修会
有意でない(95%信頼区間,片側)

	回答あり	回答なし
就学前	0	0
小学校	0	0

問２　保幼小の連携を図るための取り組みとして，今後，必要であると考えられる番号に〇をつけてください(複数回答可)。

1．通常の活動における子ども同士の交流

	回答あり	回答なし
就学前	6	14
小学校	9	14

両側検定　：　p = 0.7492　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.3810　ns (.10 < p)

2．運動会等の行事をとおした交流活動

	回答あり	回答なし
就学前	3	17
小学校	4	19

両側検定　：　p = 1.0000　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.5819　ns (.10 < p)

3．交流前における教員・保育者との打ち合わせ

	回答あり	回答なし
就学前	3	17
小学校	5	18

両側検定　：　p = 0.7041　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.4340　ns (.10 < p)

4．交流会後の教員・保育者のとの話し合い

	回答あり	回答なし
就学前	3	17
小学校	4	19

両側検定　：　p = 1.0000　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.5819　ns (.10 < p)

5．相手校・園との事務的な打合せ

	回答あり	回答なし
就学前	4	16
小学校	7	16

両側検定　：　p = 0.5012　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.3349　ns (.10 < p)

6．保・幼と学校との保育課程(全体計画)・教育課程の見直し

	回答あり	回答なし
就学前	2	18
小学校	4	19

両側検定　：　p = 0.6688　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.4029　ns (.10 < p)

7．小学校教諭による保育所・幼稚園への参観

	回答あり	回答なし
就学前	12	8
小学校	17	6

両側検定　：　p = 0.5151　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.2594　ns (.10 < p)

8. 保育者・幼稚園教諭による小学校への授業参観

	回答あり	回答なし
就学前	7	13
小学校	11	12

両側検定 ： p = 0.5375 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.2951 ns (.10 < p)

9. 小学校入学時における就学時の受け入れ態勢づくり

	回答あり	回答なし
就学前	7	13
小学校	18	5

両側検定 ： p = 0.0059 ** (p < .01)
片側検定 ： p = 0.0049 ** (p < .01)

10. 就学前に実施される情報交換会

	回答あり	回答なし
就学前	14	6
小学校	20	3

両側検定 ： p = 0.2634 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.1619 ns (.10 < p)

11. 気になる行動を示す子どもの様子についての情報交換会の機会

	回答あり	回答なし
就学前	14	6
小学校	19	4

両側検定 ： p = 0.4728 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.2693 ns (.10 < p)

12. 保育や授業などの実践についての合同研修会

	回答あり	回答なし
就学前	1	19
小学校	5	18

両側検定 ： p = 0.1918 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.1269 ns (.10 < p)

13. 年度途中における，就学後の子どもの情報交換会

	回答あり	回答なし
就学前	10	10
小学校	13	10

両側検定 ： p = 0.7636 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.4517 ns (.10 < p)

問 3　保幼小の連携を進める際に課題と感じられることについて，あてはまる番号に〇をつけてください(複数回答可)。

1．連携の具体的な内容や手順を決めること

	回答あり	回答なし
就学前	8	12
小学校	7	16

両側検定　：　p = 0.5401　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.3681　ns (.10 < p)

2．保育課程(全体計画)，教育課程に位置付けていくこと

	回答あり	回答なし
就学前	5	15
小学校	7	16

両側検定　：　p = 0.7449　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.4794　ns (.10 < p)

3．園内，校内の共通理解を図ること

	回答あり	回答なし
就学前	6	14
小学校	3	20

両側検定　：　p = 0.2634　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.1619　ns (.10 < p)

4. 小学校教諭と保育者の間で指導官の共通理解を図ること

	回答あり	回答なし
就学前	11	9
小学校	7	16

両側検定　：　p = 0.1301　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.0935　+　(.05 < p < .10)

5．毎年継続していくこと

	回答あり	回答なし
就学前	5	15
小学校	4	19

両側検定　：　p = 0.7109　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.4054　ns (.10 < p)

6．計画や準備に手間や時間がかかること

	回答あり	回答なし
就学前	3	17
小学校	8	15

両側検定　：　p = 0.1753　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.1284　ns (.10 < p)

7．日程調整が難しいこと

	回答あり	回答なし
就学前	7	13
小学校	12	11

両側検定　：　p = 0.3586　ns (.10 < p)
片側検定　：　p = 0.2055　ns (.10 < p)

8．活動中，移動中の園児児童の安全の確保

	回答あり	回答なし
就学前	1	19
小学校	2	21

両側検定 ： p = 1.0000 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.5535 ns (.10 < p)

9．活動時間の確保

	回答あり	回答なし
就学前	1	19
小学校	8	15

両側検定 ： p = 0.0243 * (p < .05)
片側検定 ： p = 0.0188 * (p < .05)

10．移動時間の確保

	回答あり	回答なし
就学前	0	20
小学校	3	20

両側検定 ： p = 0.2359 ns (.10 < p)
片側検定 ： p = 0.1435 ns (.10 < p)

11．担任教諭が異動した後の継続

	回答あり	回答なし
就学前	2	18
小学校	8	15

両側検定 ： p = 0.0764 + (.05 < p < .10)
片側検定 ： p = 0.0577 + (.05 < p < .10)

問 4　**【小学校 1 年生担任の先生】，のご回答。**「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」についてあてはまる番号に〇をつけてください(複数回答可)。

1. 保育所「保育所児童保育要録」，幼稚園「幼稚園幼児指導要録」を知っている。
2. 入学後，教育の中で活用している。
3. 活用するためにすぐに手にとれる環境である。
4. 子どもの知りたい情報が記入されている。
5. 保護者の願い等も記入されていた方が良い。
6. 回答なし

Table 1　小学校担任における「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用に対する回答の個数

回答	1	2	3	4	5	6
頻度(個)	12	5	5	4	3	11

$x2(5) = 10.998$,　$.05 < p < .10$

問 5　**【保育所保育者と幼稚園教諭の先生】のご回答。**「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」についてあてはまる番号に〇をつけてください(複数回答可)。

1. 子どもの実態を記入しやすい。
2. 小学校へ伝えたい内容をすべて記述することができる。
3. 保護者の願いを記入したほうがよい。
4. 入学後は，教育の中で活用されていると思う。
5. 「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の送付だけでなく，直接小学校と情報を共有する必要がある。
6. 回答なし

Table 1　小学校担任における「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」の活用に対する回答の個数

回答	1	2	3	4	5	6
頻度(個)	6	1	1	1	15	2

$x2(5) = 35.839$,　$p < .01$

【資料 2】調査結果(単純集計)

1．保幼小連携のために現在実施中の取組について

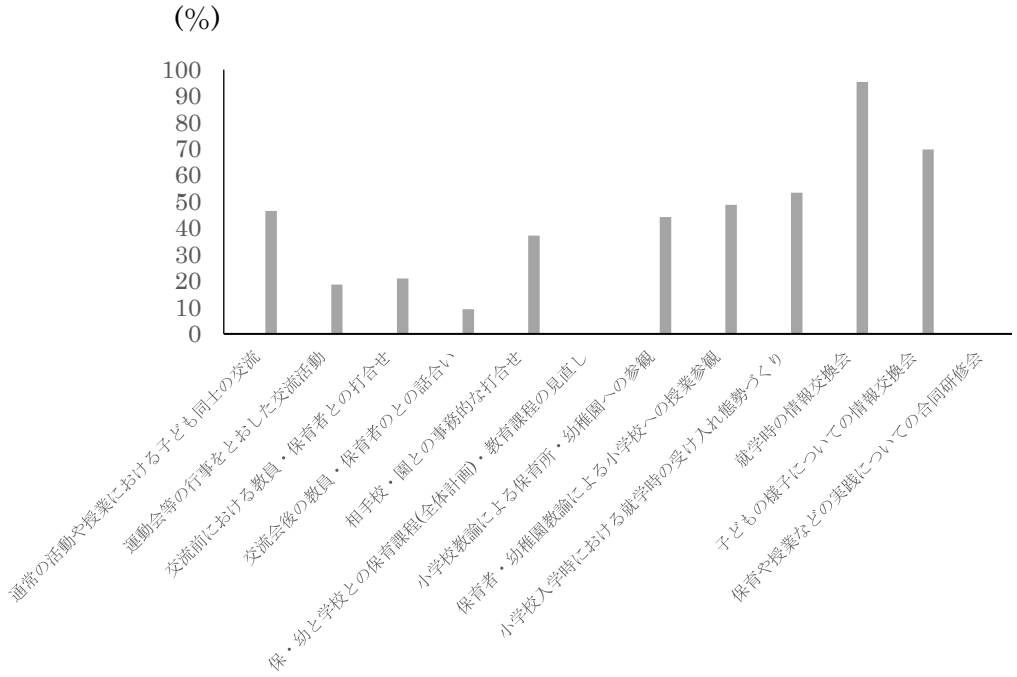

Figure 3　保幼小連携のために現在実施中の取組の割合(全体)

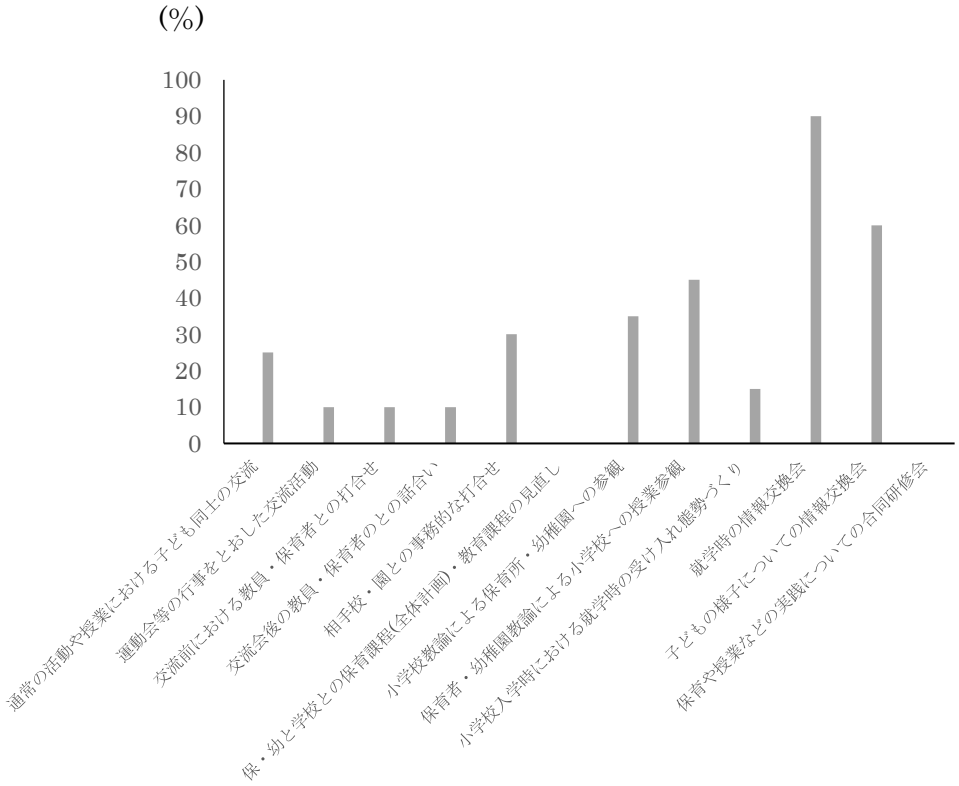

Figure 4　保幼小連携のために現在実施中の取組の割合（就学前）

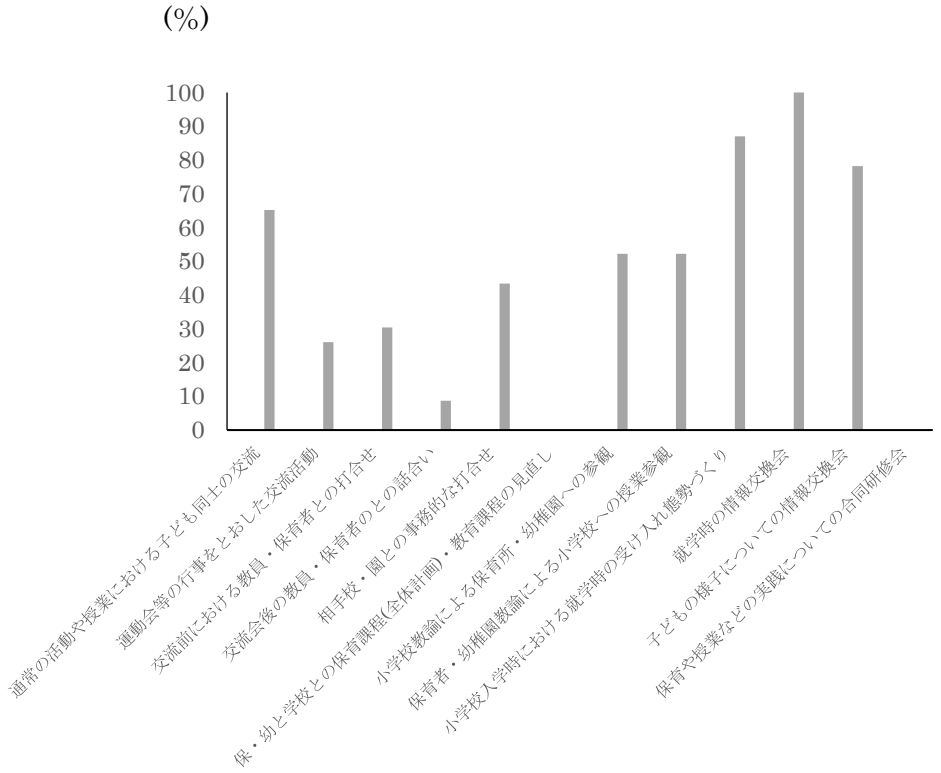

Figure 5　保幼小連携のために現在実施中の取組の割合(小学校)

2. 保幼小連携のために今後必要と思われる取組について

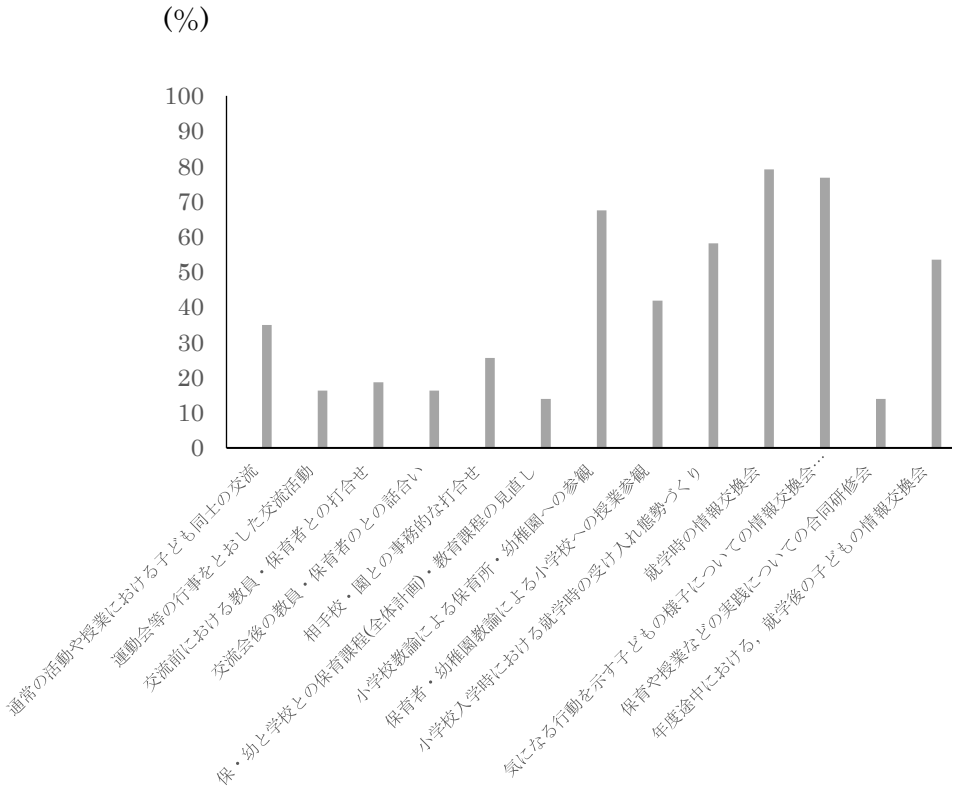

Figure 6　保幼小連携のために今後必要と思われる取組の割合(全体)

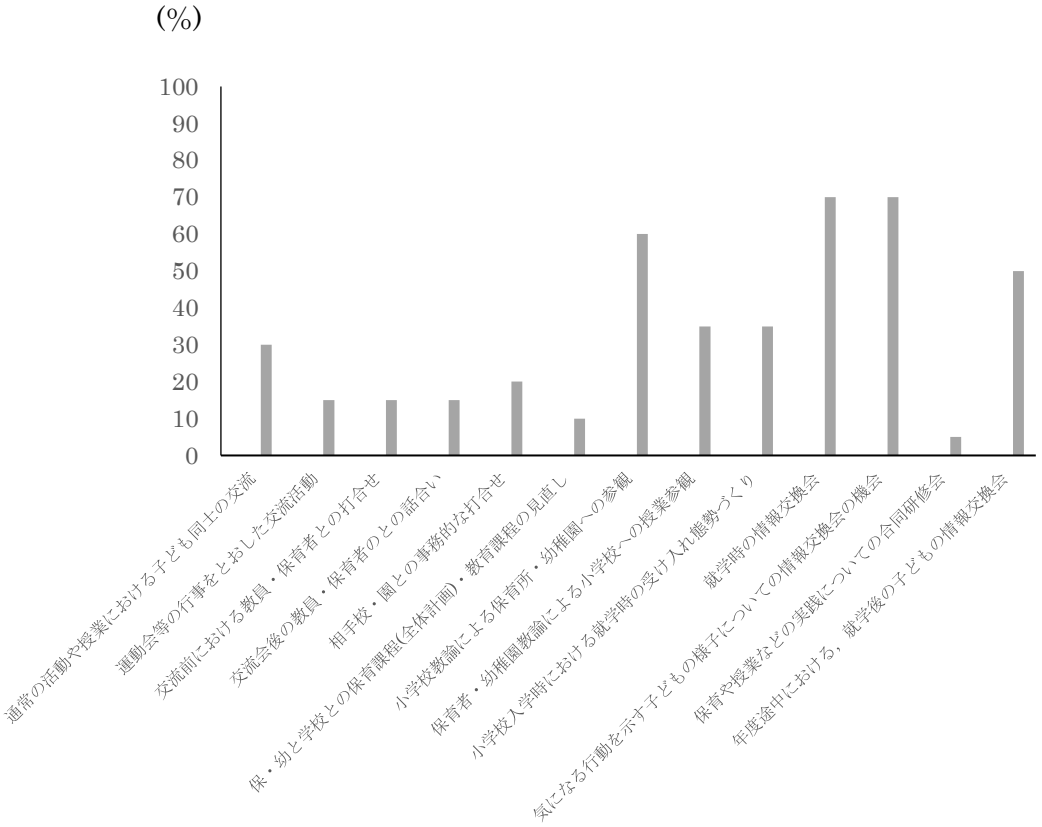

Figure 7　保幼小連携のために今後必要と思われる取組の割合(就学前施設)

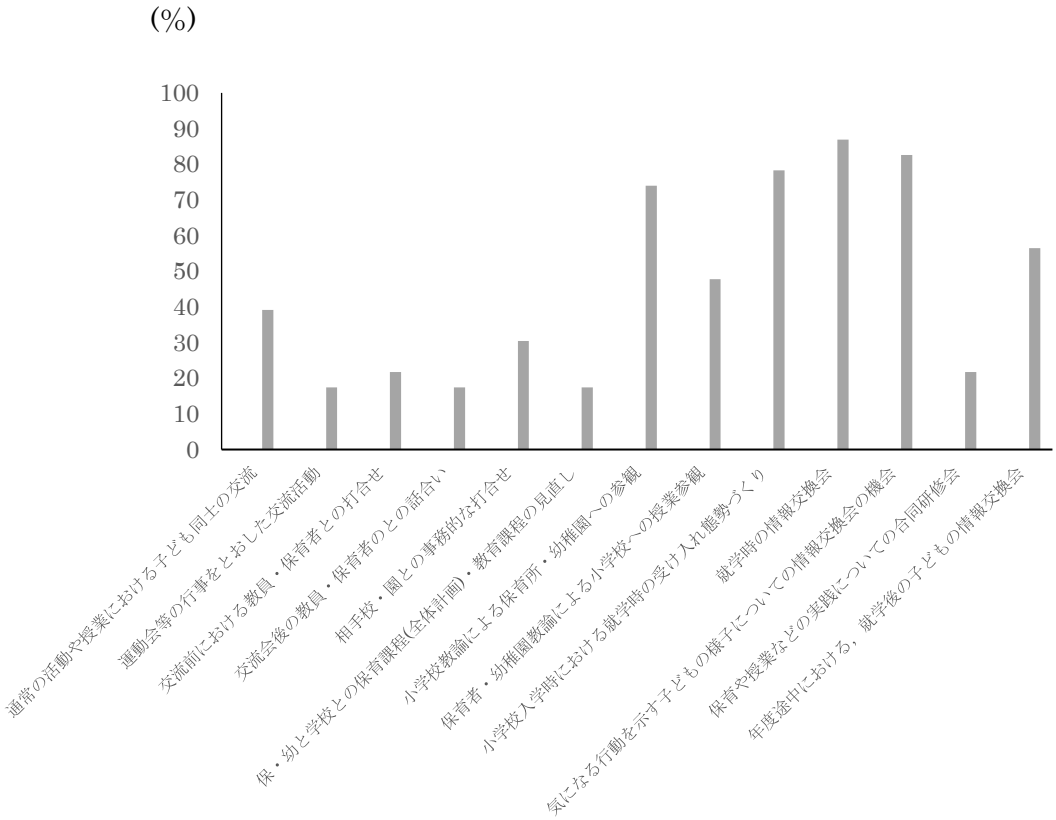

Figure 8　保幼小連携のために今後必要と思われる取組の割合(小学校)

3. 幼保小連携の課題について

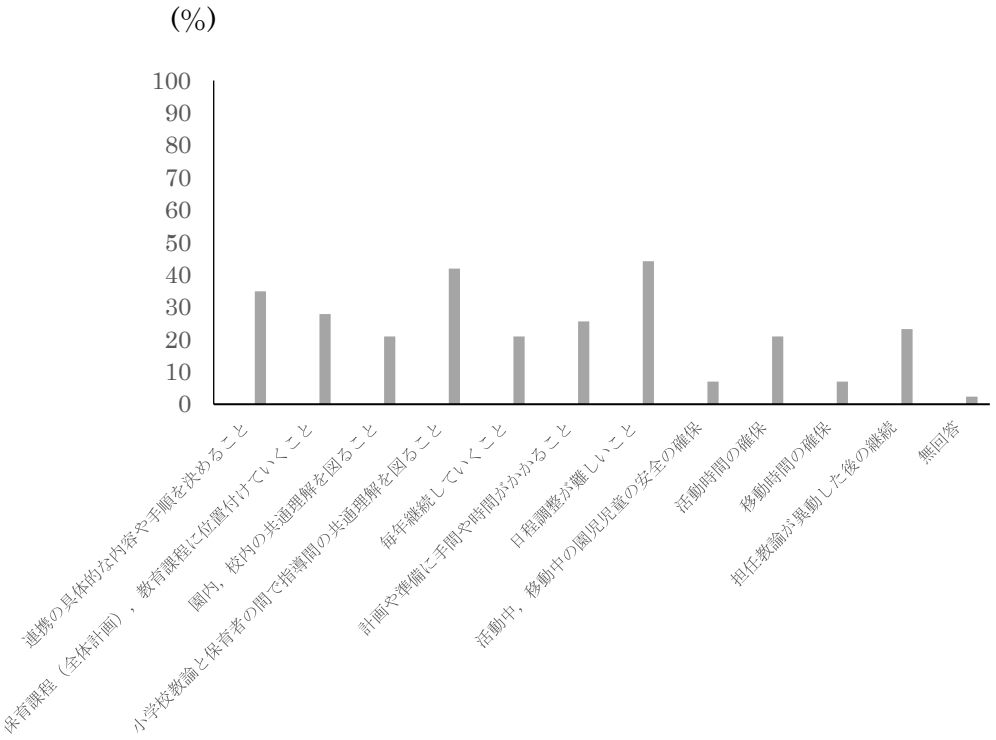

Figure 9　保幼小連携のための課題の割合(全体)

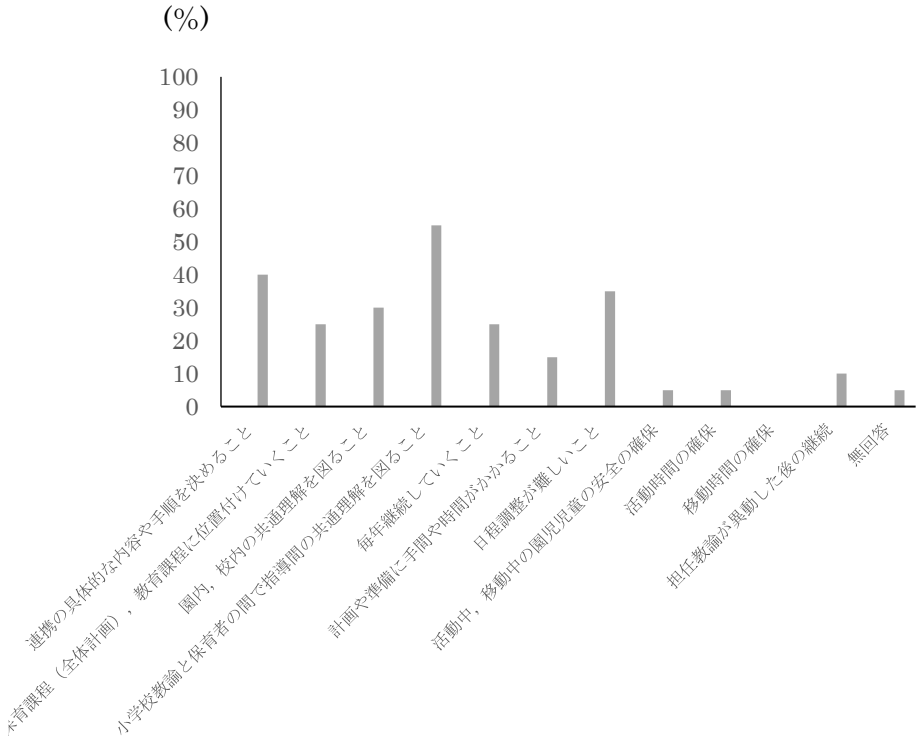

Figure 10　保幼小連携のための課題の割合(就学前)

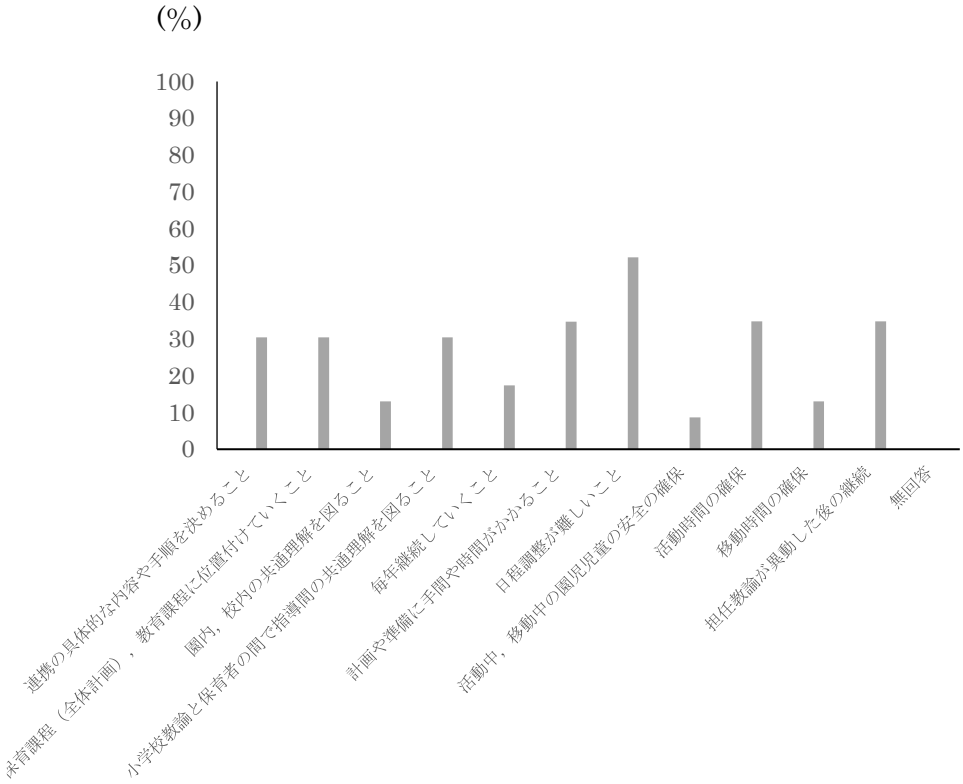

Figure 11　保幼小連携のための課題の割合(小学校)

4.「保育所児童保育要録」「幼稚園幼児指導要録」について

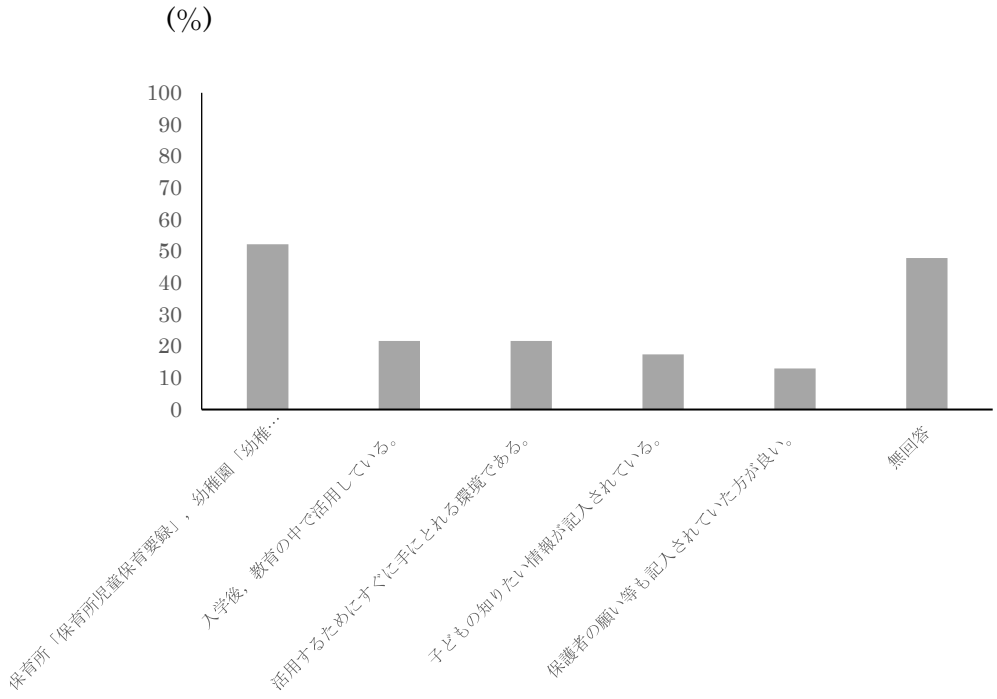

Figure 12　小学校担任の「要録」に対する回答の割合(小学校)

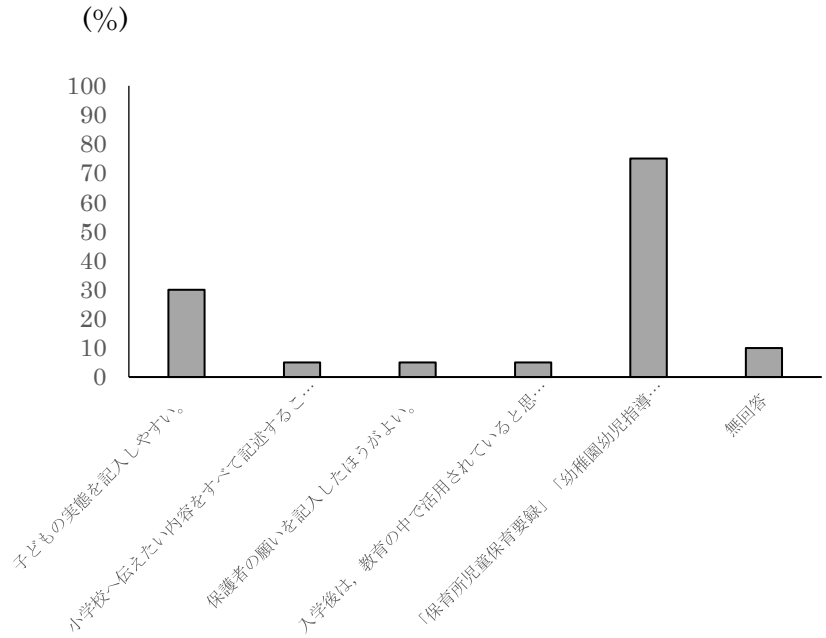

Figure 13　就学前施設担任の「要録」に対する回答の割合(小学校)

【文献】

河口　麻希・七木田　敦(2017) 小学校特別支援学級担任における保幼小連携に関する実態調査――年長担任・1 年生担任との比較―― 特別支援教育実践センター研究紀要　第 15 号，97-103.

渡邊　恵子(2018) 幼小接続期の育ち学びと幼児教育の質に関する研究 国立教育政策研究所　平成 27 年から 28 年報告書.

おわりに

「言うは易く行うは難し」という言葉があります。このたび新潟県五泉市様から分析の依頼を受けた“保幼小連携”は，全国的に見ても正にその言葉が当てはまる課題となっています。

小学校の先生方が職員研修の一環として保育所や幼稚園に伺うと，多くの場合，心が洗われる思いをもちます。それは，保育所や幼稚園の先生方が乳幼児一人一人の思いや願いに寄り添いながら丁寧に保育する姿を見て，そこに教育の原点を見いだすからです。また，反対に保育所や幼稚園の先生方が小学校に伺うと，多くの場合，自らの保育を見つめ直そうとするエネルギーを得ます。それは，小学校の先生方が児童一人一人の育ちを授業の目標に照らして見極めようとする姿を見て，そこに教育者としての矜恃を感じ取るからです。

五泉市様における今回の実態調査は，そうした保育所，幼稚園および小学校の先生方の“良さ”が融合し，それぞれの職域で化学反応が起きるようなシステムづくりを志向しておられるのではないかと思念します。それは，全国における多くの自治体が求めているシステムであると同時に，子どもを，先生方を幸せにするシステムでもあります。そして，本報告書に見られる五泉市様の実態は，そうしたシステムづくりが十分に可能であることを強く示唆しています。五泉市の子どもたち，ならびに子どもたちの保育・教育に携わる全ての方々の幸せを祈念します。

なお，本報告書の作成に当たっては，統計学上の分析に関する設計を齊藤と岩﨑の両名で行い，検定と図表作成を齊藤が、全体の確認と校正を岩﨑が，それぞれ担当しました。

最後になりましたが，質問紙調査を分析する機会を与えていただくとともに，本報告書の執筆に際しても親しく御指導を頂きました五泉市教育委員会の金洋輔指導主事先生に御礼を申し上げます。

岩﨑　保之（新潟青陵大学）

―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―

新潟県五泉市における保幼小連携に関する実態調査報告書
――就学前施設年長児担任・小学校１年生担任・特別支援学級担任の回答からの検証――

2018 年 5 月 30 日発行
編著者　齊藤 勇紀(新潟青陵大学) ※編集代表
　　岩﨑 保之(新潟青陵大学)
発行所　新潟青陵大学齊藤研究室
　　〒951-8121　新潟県新潟市中央区水道町 1-5939　新潟青陵大学
製　本　特定非営利活動法人スペース Be 新大前
　　〒950-2101　新潟県新潟市西区五十嵐１の町 6703-4